緊急地震速報発報ハードウェア「地震の見張り番 plus one」

気象庁『緊急地震速報を適切に利用するために必要な受信端末の機能及び配信能力に関するガイドライン』
への対応状況・対比表

	A 機械・館内放送設備等の自動制御 B オペレーターを介した機械・館内放送設備等の制御			「地震の見張り番 plus one」対応状況	
	機械等の制御	館内放送			
		不特定多数向けの警報に整合した放送	その他		
気象庁が緊急地震速報(予報)を発表してから端末が報知または制御を開始するまでに要する時間	1秒以内	1秒以内	1秒以内	○	1秒以内を実現
気象庁から端末まで、配信をとぎれさせないような対策	十分とられているもの	十分とられているもの	十分とられているもの	○	配信システムと端末はTCP/IPで常時接続し保全
時刻合わせ	±1秒以内	±1秒以内	±1秒以内	○	±0.1秒以内
配信・許可事業者によるサポート	充実しているもの	充実しているもの	充実しているもの	○	通報端末と配信システムを3分に1回死活監視し管理者へ通知
耐震固定等地震の揺れへの対策	推奨	推奨	推奨	○	壁掛・据え置き時に固定可能
無停電化	推奨	推奨	推奨	○	別途UPS等により保全可能
端末の冗長化	推奨	推奨	推奨	○	配信サーバー2台の登録と切り替え可能
回線 常時接続できる回線	必須	必須	必須	○	TCP/IP常時接続実現
回線 専用線等信頼性の高い回線	推奨	推奨	推奨	○	推奨しております
サーバー端末間の物理回線の冗長化	推奨	推奨	推奨	○	推奨しております
予想した猶予時間	猶予時間がない場合でも利用	猶予時間がない場合でも利用 猶予時間＋ 10秒程度は安全確保を促す報知を継続	猶予時間がない場合でも利用 猶予時間＋ 10秒程度は安全確保を促す報知を継続	○	プラス猶予時間演算も通知猶予時間+10秒、20秒の選択による安全確保を促す報知が可能
予想した震度	制御先の強度等に応じた設定震度	警報に整合	施設の安全性による設定震度	○	利用者による任意設定が可能
精度情報 （凡例） 100ガル:100ガル超え緊急地震速報 1点:1観測点のデータに基づく緊急地震速報(業) 複数点:複数観測点のデータに基づく緊急地震速報(業)	複数点を利用 (op)100ガル、1点等は制御の準備に利用 (op)迅速な制御を行う際には、100ガル、1点も利用	警報に整合 100ガル、1点等は放送の準備に利用	複数点を利用 100ガル、1点等は放送の準備に利用	○	複数点を利用 100ガルを超える緊急地震速報電文受理の場合は予測震度のみでマグニチュードが記載されていない電文は排除
深発地震についての緊急地震速報(業)	利用しない (op)東日本太平洋側では利用	警報に整合	利用しない (op) 東日本太平洋側では利用	○	利用しない
放送・報知内容		NHKチャイム音の後に「地震です。落ち着いて身を守って下さい」を利用 放送した後は、実際の震度を放送	NHK チャイム音の後に「地震です。落ち着いて身を守ってください。」を利用 放送した後は、実際の震度を放送 (op)騒音等で放送が聞き取りにくい条件下では、認識しやすい内容で放送	○	NHK チャイム音の後に「地震です。落ち着いて身を守ってください。」を利用 取扱説明書・マニュアル・ご利用規約・免責事項等において、誤差についてご理解いただけている事を前提に、予測震度、猶予秒数カウントダウンを通知
緊急地震速報(業)で制御、放送、報知を行った後に同一地震または別の地震について提供される緊急地震速報(業)	予想した震度によって異なる制御内容があり、制御開始後であっても制御内容の変更が許される制御対象の場合で、かつ、予想した震度が大きくなる場合には制御内容を変更。予想した震度が小さくなる場合の変更には十分な留意が必要。 震度の違いによって制御の内容を変えていない場合や制御開始後は制御内容の変更が許されない制御対象の場合では用いない	放送内容は変更しない	予想した震度によって放送を変えており、放送対象者が放送の変更に対応が可能な場合で、かつ、放送後の予想した震度が大きくなる場合には震度に応じた内容を放送。予想した震度が小さくなる場合の変更には十分な留意が必要 震度の違いによって放送の内容を変えていない場合や放送対象者が放送の変更に対応できない場合では用いない	○	設定された震度閾値を超えた震度の場合、制御、アナウンス、報知を実施。その後の電文も全て受信するが震度を1以上廻った場合、猶予秒数が1秒以上、短くなる演算結果の場合はアナウンスを更新する。別の地震を受けた場合も同様。

キャンセル報	制御やその準備に利用された緊急地震速報に対して提供された場合は解除や解除の判断に利用	放送やその準備に利用された緊急地震速報に対して提供された場合は解除や解除の判断に利用	放送やその準備に利用された緊急地震速報に対して提供された場合は解除や解除の判断に利用	○	報知した緊急地震速報に対してキャンセル報が発令された場合は報知
試験	テスト報を受けて行う試験を実施ただし、普段はテスト報により動作や制御をしない設定とすること	テスト報を受けて行う試験を実施ただし、普段はテスト報により動作や制御をしない設定とすること	テスト報を受けて行う試験を実施ただし、普段はテスト報により動作や制御をしない設定とすること	○	テスト報を受けて行う試験を実施 ただし、普段はテスト報により動作や報知をしない設定
訓練	端末が持つ訓練機能または訓練報を端末が受けて行う訓練を実施 ただし、普段は訓練報により動作や制御をしない設定とすること （Bに限る）	端末が持つ訓練機能または訓練報を端末が受けて行う訓練を実施 ただし、普段は訓練報により動作や放送をしない設定とすること	端末が持つ訓練機能または訓練報を端末が受けて行う訓練を実施 ただし、普段は訓練報により動作や放送をしない設定とすること	○	端末が持つ訓練機能または訓練報を端末が受けて行う訓練を実施出来る 普段は訓練報により動作や報知をしない設定
配信・許可事業者への連絡	推奨	推奨	推奨	○	ガイドラインの趣旨は予報業務許可事業者が、お客様の使用状況を把握した上でサービスするように求めておりますので、当社では、お客様の使用状況・目的を、お聞きし把握する様に努めております。